

タマネギ

使用産地：北海道、佐賀県など各地

使用目的：

タマネギの根は浅根性で吸収力が弱く、生育期間中は土壤水分の影響を受けやすい特徴があります。有機物や完熟堆肥などを投入し、土の団粒化や圃場の排水性を高め土壤水分の安定した圃場で根の生育を促進させる必要があります。特に表面から深さ30cmまでのところに硬い層があると低収量となることが、発表されており、最低でも深さ30cmまでの物理性の維持改善が必要となります。

また、肥料の効かせ方においても吸収力にあわせて緩効性肥料などが使用され、且つ土壤中の有効態リン酸が必要となります。降雨などによる肥料成分の硫亡を防ぎ、リン酸を有効活用するために圃場の腐植を高めることがポイントになります。

使用方法（育苗・本圃）：

<タマネギ育苗床でのコフナ使用方法（北海道）>

黒穂病などの病害に感染した苗による本圃への病原菌の持込みを予防するため、次年度の対策として育苗床の土壤管理にコフナを使用します。ポット育苗（みのる式）においてもポットからはみ出た根と育苗床が接触し、病原菌が感染する場合があります。

健苗作りは定植後の活着促進、初期成育促進の効果もあります。

使用時期：前年秋まで

使用数量：コフナ1号 1kg／1坪

使用方法：土壤消毒処理（例 バスアミド微粒剤 30kg／10a）ガス抜き（2回）後
緑肥すき込み時



育苗床にて緑肥をすき込んだ様子（北海道北見市）

<タマネギ育苗床でのコフナ使用方法（佐賀）>

8月にタマネギの育苗床で土壌消毒（主にバスアミド）を実施し、9月後半に播種する体系を取っています。連作障害を回避させるために圃場を変えることが多いですが、管理の簡便さから、圃場での育苗が増えてきています。9月の秋雨前線による多雨の影響を受けることが有り、土壌改良の必要が出てきています。露地での育苗のため、除草目的としての土壌消毒が必須となっており早めにコフナを投入し土壌改良を行い、最後に土壌消毒を実施するという方法を進めております。

使用時期：7月上旬までに

使用量：コフナ1号もしくはMPを5～10袋／10aを施用

※使用時期に関しては可能な限り早めに投入をお願いしております。

土壌消毒：なるべく浅めにバスアミド等の土壌消毒を8月中旬に実施。



2016年11月佐賀 育苗圃場

<本圃でのコフナ使用方法>

収穫後に散布する堆肥や米ヌカ、魚かすなどの有機物やすき込まれた緑肥を次作の定植までに分解し腐植化を促進します。コフナを併用することで散布する有機物の種類も増え、微生物の多様化・活性化により土壌の静菌作用が高まります。

米ヌカや魚かすのような分解しやすい有機物に含まれるリン酸やアミノ酸が次作のタマネギ栽培にて吸収されやすくなります。

緑肥のすき込み時では糖類や繊維質（セルロース）分解を促進し、次作定植時の窒素飢餓やガス障害を予防します。緑肥栽培による耕盤の改善と微生物による緑肥の分解・腐植化が土壌の物理性改善につながります。団粒構造化された土壌は通気性・保水性が良く、干ばつや大雨などの異常気象による干害や湿害への対策となります。

使用時期：収穫終了後

使用数量：コフナMP 3～5袋／10a 北海道 ※本州では10～15袋／10a

使用方法：有機物（堆肥・米ヌカ・魚かす・後作緑肥）散布と合わせて全層散布後、耕耘



左：緑肥＋コフナ区 右：慣行区
（北海道夕張郡栗山町のタマネギ畑）



北海道夕張郡栗山町のタマネギ



群馬県富岡地区

次頁の北海道配布チラシもご参考にしてください。

タマネギ栽培の土壌病害発病軽減対策

COFUNA®



コフナはフランス・パスツール研究所アンドレ・プレボー博士の開発商品です。



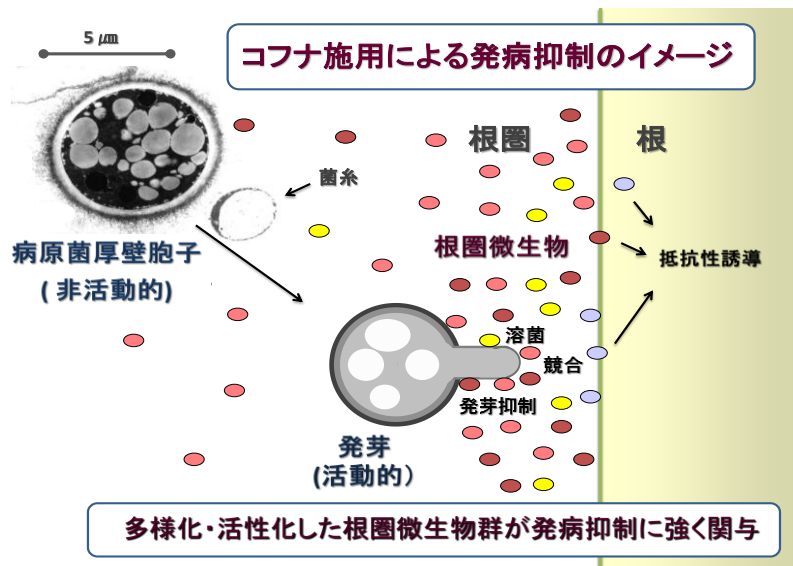
有機物と微生物資材コフナの施用で土壌管理

- 散布する有機物を微生物分解し腐植化を促進
- 有機物と微生物で畑の微生物活性と多様性が向上
- 腐植物質増加による土壌改良と微生物相の改善で発病を予防

総発売元 ニチモウ株式会社

微生物資材コフナの効果

- 病原菌の生存環境となる被害株の残根を分解し、連作による被害増大を予防します。
- たい肥や後作緑肥など有機物との併用により、土壤微生物の活性向上や多様化を図ります。
- 根圏の有用微生物バランスが整い、病原菌のタマネギの根への寄生を抑制します。(イメージ図)



(資料提供:千葉大学園芸学部植物病学研究所)

- コフナに含まれる好気性・嫌気性菌が土壤表層から深層部まで有機物分解や静菌作用に関与します。

コフナの標準施用量

●本圃

収穫後の有機物(たい肥・米ぬか等)散布や緑肥すき込み時に …… 3~5袋/10a

※ 春先の散布はタネバエを誘発する場合があります。収穫後、年内に散布し土壤へ混和して下さい。

※ 地温条件によりますが、コフナ施用から 7~10 日間は微生物活性が上昇し、有機物分解が急激に促進されます。作業の都合上、春に散布される場合はコフナ施用から 10~14 日程度期間を空けてから播種・定植をして下さい。

●育苗ハウス

緑肥すき込み時や土壤消毒後に …… 1kg/坪

※ 育苗期間中に土壤病害に罹病し、定植後本圃へ悪影響を及ぼす場合があります。病害苗の残根処理や土壤消毒後の微生物バランスの改善にご使用下さい。

コフナ施用上の注意

- 緑肥すき込み時に石灰窒素をご利用の場合はコフナとの同時施用を避けて下さい。
- 施用量・施用時期は土壤条件や作型などにより適宜加減して下さい。